

ユーザー訪問 わに薬局●滋賀県

従量課金方式の「Receipty NEXT」で レセコン・薬歴管理・服薬指導を融合

滋賀県で5店舗の薬局を展開するメディカルブレーンは、薬局業務の効率化、患者満足度の向上を図るため、レセコン・電子薬歴・服薬指導・薬局間情報共有などを一体化したシステム「Receipty NEXT」を採用。その操作性・機能性を高く評価している。

介護、在宅事業を調剤に活かす

1997年設立の(有)メディカルブレーン(本社:滋賀県大津市)によって滋賀県で運営されているのが、わに薬局である。現在、大津市に3店舗、草津市と栗東市に1店舗ずつ展開。社長の塩飽勝美氏が以前勤めていた会社で薬局事業を任された経験が独立の契機となったという。

わに薬局を開設する際、塩飽氏の念頭にあったのは「最初は経営は順調に進むだろう。だが、資本力では大手に負けるため、処方せンを応需するだけではいずれ売り上げは右肩下がりとなる」ということだった。OTC医薬品や化粧品、日用雑貨も販売するとなれば広い店舗面積が必要となり、これも資本力がものをいう。そこで塩飽氏がとった戦略は、介護や在宅医療に本格的に取り組むことだった。

まず、従業員に「オムツフィッター」の資格をとらせ、おむつのフィッティングと配達を無料で行うサービスを開始。福祉用具貸与事業所とケアマネジャーの事業所も立ち上げた。そして、要介護者とその家族、主治医、看護師、わに薬局のつながりが密になったところで、「在宅介護支援事業部」を設置し、在宅患者訪問薬剤管理指導に乗り出した。「わに薬局に行けば、薬のことだけでなく、福祉用具や在宅介護のことまで相談できる——こうした付加価値が 地域の人々に信頼される薬局の形成につながっていくと思うのです」と塩飽氏。

さらに、同社にはサプリメントコーディネーターの有資格者が3人いて、オリジナルサプリメント「コエンザイムQ10」などの販売をはじめ、「上手なサプリ生活」を応援する体勢も整



左から塩飽勝美社長、薬剤師・保井洋平氏、管理薬剤師・玉山亨子氏、事務・池田範子氏



わに薬局坂本店。同店では隣接する精神科・神経科病院の処方せんに応需している



えた。今後は、環境商品の販売にも取り組むという。

処方せんの処理件数に応じて課金

薬局業務の効率化、患者満足度の向上も模索していた塩飽氏は、新しい調剤・薬歴管理システムの導入を計画。試験的導入を含め、利便性、経済性、服薬指導支援の有無など、各要件を勘案して採用したのが(株)EMシステムズの「Receipty NEXT」だった。これは同社の調剤システム「Receipty」と服薬指導支援システム「Navity」が1つに融合されたシステムだ。レセコン・電子薬歴・服薬指導・薬局間情報共有・処方歴閲覧モバイルシステムの全てが一体化され、操作性も飛躍的に向上。また、料金プランも調剤システムにとって革新的ともいえる「従量課金制」を採用。使用料金が処方せんの処理件数に応じての課金であるため、経営とリンクした費用負担が実現する。しかも、定評がある服薬指導支援機能に加え、「感染症流行探知サービス」も標準搭載している。

わに薬局坂本店(大津市)の管理薬剤師、玉山亨子氏は「Receipty NEXTの画面は見やすく、操作性が良いと感じています。結果的に時間短縮と正確性が実現し、服薬指導の向上につながっています」と指摘する。薬剤師の保井洋平氏も「薬歴のSOAP欄が非常にしっかりしていて、コメント欄も使いやすい」と話す。事務を担う池田範子氏は「法改正や薬剤情報が常に最新のデータとなるようになっていたので、安心かつスムーズに処理できます」と、それぞれReceipty NEXTを高く評価している。

EMシステムズはユーザーサポートをより充実させるため、2009年1月に大津サテライトオフィスを開設した。「県内にサポート拠点があることで、対応スピードが飛躍的に上がり助かっています」と塩飽社長。メーカーに対する信頼感が向上し、さらなる期待を寄せているという。